

昨今の地球規模の異常気象によって、国内のいずれの地域においても、甚大な被害をもたらす自然災害の発生の脅威が高まっています。ひとたび災害が発生すると、行政の管理栄養士は、被災の影響を受けた地域住民の栄養と食生活支援ニーズに対し、公衆栄養対策推進のために組織内外の多様な関係者と連携を図り最前線での活躍が求められます。

本書は、このような災害時に、公衆栄養の専門職に期待される役割の理解と、平常時の体制整備の一層の推進に役立つ教材として編集されました。本書の最大の特徴は、2つのコンテンツで編成されていることです。

まず1つ目は、アクションカードです（別冊）。アクションカードは、緊急事態発生時の判断を導き、各自の行動を促すための指示書です。想定される実態を考慮しアクションカードを整備することによって、災害時に求められる対応を、確実に遂行することに役立ちます。本書では、具体的な例が示されており、各々の地域や、自組織の実態に応じてリバイスし、いざという時に備えることや、災害時の公衆栄養の課題解決のために協働を要する関係者等との認識の共有や連携のツールとしても有効です。

もう一点は、過去に生じた災害時の事例をもとに作成されたケースメソッド教材です。本教材を活用した演習を体験することによって、災害時に専門職に求められる役割の理解やスキルの獲得を図ることをめざします。災害時に必要とされる知識やスキルは、日常業務を通じた経験に基づく平時の人材育成だけでは不十分です。一方、同様の災害支援経験を繰り返し体験することによって必要な知識・技術の習得を図ることは現実的ではありません。そのため、演習教材を用い、追体験を繰り返すことで、災害時の公衆栄養に関するニーズの理解や、求められる判断力などを強化することが重要になります。

甚大な災害の発生後の早期は、マニュアルを読み解く余裕もない状況に迫られることが一般的です。いつ、誰もが、被災地自治体の公衆栄養に携わるエキスパートとして対策の推進の核となることができるように、さらなる人材育成や体制整備の推進に向け、本書を有効に活用いただくことを期待しています。

2020 年 2 月

研究班助言者

国立保健医療科学院 健康危機管理研究部

奥田 博子